

研修医プログラムを修了して

研修プログラムを修了して

歯科臨床教育学分野 齋藤 豪

初めまして、歯科臨床教育学分野大学院1年の齋藤豪です。私はプログラムAにて研修をさせていただきました、今年度も引き続き歯科総合診療部にて診療と研究を行っています。今回、「研修医プログラムを修了して」というテーマで執筆する機会を頂きましたので、1年間の臨床研修について触れさせていただきたいと思います。これから研修先を決める学生の皆さんへ少しでもお役に立てれば幸いです。

私はプログラムAを希望し、研修を行いました。希望した理由は、将来的に1口腔単位を考えて診療を行える歯科医師になりたいと考え、一般診療を幅広く学びたいと思ったからです。また、在学中から歯学教育にも興味があり、卒業後は当分野大学院進学を考えていたのでプログラムAを希望しました。

研修では、研修医は1人の担当医として患者を担当し、1口腔単位での診療を行います。私は研修当初に20人ほどの担当となり、新患を担当させて頂き最終的には30人ほどの患者を担当しました。1人の患者を任される責任感が生まれ、それが自発的な学習の意欲となりました。研修ではまず初めにすべての患者の治療方針を自らで検討し、指導医との確認を行います。患者の問題点は何か、それを解決するためにはどのような治療が必要か、そのすべてを自分で考える機会が与えられます。自らで考え、学習を行う環境が自己成長につながりました。自分で考えなければならない点で不安に思う人もいるかもしれませんが全く心

配ありません。治療方針の検討から、その日の治療までわからないことがあれば常に指導医の先生が相談に乗ってくれます。指導医の先生だけでなく、医員やレジデント、大学院生の先生方は研修医により近い立場の存在であり、忙しい仕事の合間でも快く相談に乗っていただけます。私自身、数多くの先生方の心強い手助けがあってこそ研修を無事に修了できたと思います。

また、プログラムAでは2人1組のペアを組み、診療や業務、他科研修を行います。治療に困ったときや相談したいときには、なにより近くにパートナーがいます。時には他愛もない話で夜遅くまで控室にいたこともありました。昨年度は22名の同期がいました。他大学出身の先生も多々様々は話を聞けてとても貴重な経験でした。研修後に近況報告することも多く、自分ももっと成長しなければならないと実感させられます。

最後に、1年間で指導いただいた先生方、サポートして下さる歯科衛生士、看護師の方々、そして研修同期の皆さんに感謝申し上げます。大変お世話になりました。今後ともよろしく願い致します。



指導医班での写真（筆者右端）

～研修プログラムを修了して～

生体歯科補綴学分野 工藤莉奈

はじめまして、生体歯科補綴学分野レジデントの工藤莉奈です。私は2019年3月に本学を卒業後、4月より1年間、新潟大学医歯学総合病院臨床研修プログラムB（Bコース）で研修しました。研修の1年間を振り返り、書かせていただきたいと思えます。

まず私がBコースを選んだ理由についてです。最初は新潟大学以外も見てみたいと思い、外部の研修先というのも考えていくつか見学に行きました。しかしそこで改めて、自分が実習している新潟大学で、担当医として治療計画を立て、診療できる研修プログラムが魅力的だと思いました。また、半年間は自分の興味のある専門診療科で、もう半年間は大学での診療だけでなく開業医での診療を経験できる機会はあまりないなと思いBコースを選択しました。

4月からの前半半年は埼玉県八潮市にある開業医「今井歯科」で研修させていただきました。開業医は1日の診療件数もとても多く、1人あたりの診療時間も短いため、国家試験を終えて日々ガラガラ過ぎていた私には4月はじめは1日があっという間でした。診療は大学では接する機会が少ない小児も多く、いい経験となりました。その他セミナーへの参加や豚顎実習なども経験できました。スタッフの方々・先生方もとても優しく、他大学の研修医の先生もいて、楽しく有意義

な半年間の研修となりました。

10月からの後半半年は冠ブリッジ診療科で研修させていただきました。学生の頃の冠ブリッジの実習が好きだったこと、補綴に興味があり、担当医として多くの症例を経験できるかなと思い選択しました。研修医では多くの症例にふれることができたのに加えて、半年の間に5回の症例検討をする場がありました。1人1人の患者さんについて、1口腔単位での診査・診断・治療計画を考え、それについて先生方からアドバイスをいただくことで自分では気づけなかったことや考えなければいけないことに気づくことができました。また先生方の診療を間近で見ることができ、質問や相談にも親身になって時間を割いてくださり、非常に勉強になりました。

ご指導してくださった先生方、研修先の方々への感謝、研修医で経験したことを忘れずに日々勉強し、成長していきたいと思えます。最後まで読んでいただきありがとうございました。

